



JHFレポート

5月号

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1999年

3月総会で1999年度JHF事業計画案を承認。

3月17日(水)13時30分から18時まで、東京都羽田空港ターミナルビル・ビッグパード、シリウスの間で、JHF3月通常総会が開かれました。

全国から47正会員(都道府県連盟)のうち41名の代表が出席。99年度JHF事業計画案と、99年度JHF収支予算案が、賛成多数で可決されました。また、(社)JHF会員規約案については、じっくり検討するため

に6月総会で再提案してはどうかという意見が出され、多数がそれを支持し今回は反対案を出しました。6月総会で再び議案としてとりあげられる予定です。

福岡県連盟と茨城県連盟から提案された「JHF定款第4章第13条の3の削除について」は、福岡県連盟提案の「理事資格を正会員とする」とともに、継続して審議等に取り組んでいくことになりました。定款第4章第

13条の3では、JHFの理事は、連盟事業に関する営利を目的とする企業の役員であってはならないと定めています。

最後に、理事・監事の任期満了に伴って役員選挙が行われ、理事11名、監事2名が選任されました。新役員13名の任期は、4月1日から2001年3月31日までの2年間。2000年1月に予定しているフライヤー登録移管など大仕事に取り組む役員に声援を。

役員選挙終了。理事11名・監事2名が選任されました。

3月17日(水)のJHF3月通常総会において、任期満了に伴う役員選挙が行われました。正会員(都道府県連盟)の代表が投票し、理事立候補者13名から11名が、監事立候補者3名から2名が、新役員として選任されました。

新役員は以下のとおり。()内は推薦都道府県連盟。各人の紹介は次号で。

理事:渡邊敏久(東京)、岩間雅彦(神奈川)、小林朋子(神奈川)、星野納(神奈川)、関谷暢人(東京)、田中美由喜(東京)、朝日和博(秋田)、松田保子(東京)、横尾和彦(埼玉)

川添喜郎(埼玉)、松永文也(埼玉)

監事:宮川雅博(愛知)、坂本三津也(京都)
なお、4月6日(火)の新メンバーによる理事会で、理事の互選により、会長に川添喜郎理事、副会長に小林朋子理事が決まりました。

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 岡 良樹

このレポートが皆様のお手元に着く頃には、陽気もよくなり、本格的なフライトシーズンが始まっていることと思います。先日、JHFの総会が開催され、99年度の事業計画と予算が決まりました。最近の事業収入の低下を反映して、かなりの緊縮予算となっています。今年度の日本選手権、また世界選手権に対する援助も大幅に削減されることになりました。残念ですが、いたしかたないことだと思います。たいへん苦しいことと推察しますが、主催者・選手の方には、予算の枠内で精一杯努力して、いい結果を出していただけるようお願いいたします。

本来ならば、3月の総会で昨年度のポイントシステムおよびクロスカントリー上位者の表彰を行うことになっていましたが、仕事に追われて失念していました。誠に申し訳ありません。6月の総会において表彰を行いたいと考えております。上位の方、できるだけご参加くださるよう、お願いします。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

先日、広島でのHG日本選手権が終了しました。地元の方々のご支援にもかかわらず、天候に恵まれず3本のみで成立だったのが残念です。役員・選手の皆様、お疲れさまでした。

その日本選手権の会期中に委員会を開

き、主に次のような「ポイントルールの改定案及び改善策」について話し合いました。

・ファーストゴールボーナスの割合変更について - 今年は10%のままで様子を見る。

・今後の得点算式について - しばらくは現状の計算方法を続けるが、世界の状況からGAPシステム採用の必要があるため、準備を進める。

・GPSによる飛行証明について - 世界的な傾向として、GPSの飛行軌跡でパイロン通過を証明する方法がとられるようになってきたため、日本への導入を検討する。

以上のほか、パイロンの設定やセクターポイント等について具体的に検討し、今後さらに細く検討していくことになりました。

教習検定委員会 委員長 島野 広幸

6~7月に行う、教員向けのタンデム技能証特別検定の準備を進めています。クロスカントリー技能証に続く新技能証の実施は、我々委員にとってもたいへん大きな課題です。内容をいろいろ検討するうち、さまざまな問題も浮かび上がってきます。そのフライトが教習が、観光が、趣味かによって、それぞれ違う保険の対象になってしまうことも、その一つです。

空中で会話できたり、まったくの初心者でもビッグフライトができたりと、2人で飛ぶから2倍楽しいタンデムですが、ソロ

フライトとは異なる難しさや危険性もあることを、十分に理解しなくてはなりません。自己責任の上に成り立っているこのスポーツを、大切に育ててください。

空のお話

その20



永原 弘美さん(ながはらひろみ)さん
ハングのサークルのことを聞き、「空を飛んでみたい」と加入した。基礎練習の後に飛んだタンデムフライトで感動。すっかり空に魅了され、授業のない日はすべてエリアで過ごすこととなった。「飛ぶことがとにかく楽しくてしょうがない」と話す彼女は、優しい先輩に囲まれる大学2年生。

県連ニュース

北海道ハンググライディング連盟

北海道スカイスports協会主催、当連盟協力の安全講習会が、毎年開催されています。今年は2月28日に札幌市で、JHF会長の渡邊敏久氏を講師に迎え開かれました。

当日は天候にも恵まれ、全道各地から熱心なフライヤーが70名参加しました。戦前、大戦、戦後の長きに渡り、スカイスports、航空部隊、航空行政に深く関わってきた会長の一言一言に、現在の恵まれたスカイスports環境が、多くの人々の努力の上に成り立っている事実を深く考えさせられました。特に、ハンググライディングが航空法の対象外になっていることが、航空法上、無視された存在ではなく、日本航空協会が運輸省航空局と協議の末、航空法の定めによらず自主管理により飛行することを決定し、警察庁の了解の下に自由な飛行を行っていることを知り、フライヤーとしての誇りと責任を再度深く自覚させられ、たいへん有意義な一時でした。

また午後からは、道内のコンペフライヤー代表の矢野健太郎氏を中心に「競技に勝つためのフライト」を熱く話し合い、マヌーバセミナーに参加した方の感想や意見なども語られ、盛況のうちに終了しました。
吉野正規

青森県ハンググライディング連盟

スキーシーズンを終えた青森県内のフライトエリアが、4月に突入して続々オープンしました。特に今春から、県南地区唯一の「たっこ229フライトエリア」がオープンし、岩手県をはじめ近県の、そして全国の

フライヤーとの交流を楽しみにしております。各エリアの連絡先等は以下のとおり。

岩木山 / 大鰐ICから40分 / HG・PG・PW
フライト可 / P証以上 / TEL.0172-83-2428
(秋田)

大鰐温泉 / 大鰐ICから10分 / PGフライト可 / P証以上 / TEL.0172-75-5510(工藤)

モヤヒルズ / 青森市郊外 / HG・PG・PW
フライト可 / B級証以上 / TEL.0177-65-1345(杉山)

雷山 / 黒石ICから30分 / PG・PWフライト可 / B級証以上 / TEL.0172-54-8065
(杉塚)

たっこ229 / 三戸郡田子町 / PG・PWフライト可 / NP証以上 / TEL.0179-22-3523
(原田) 古川正司

宮城県ハンググライディング連盟

春一番も通りすぎ、山の雪解けも進み、わが宮城にも少しずつシーズンが近づいてきます。幕開けを待ち切れぬかのように関東から大会案内が届き、知らず知らずワクワクウキウキ心が弾むこの頃です。

私たちの県連では、県内におけるスカイスports振興とハング・パラ人口拡大を願い、一昨年、昨年と無料体験会を実施してまいりました。が、残念ながら、いまだスタッフの期待に十分応える結果を得られずにおります。

そこで、今月は各県連の体験会担当の皆様提案したいと思います。期待どおりの結果が出た県連も、そうでなかった県連も、各々よかった点・失敗した点を踏まえ、今後はこうすべきだという改良の余地があ

るのではないのでしょうか。企画立案・会場探し・スタッフ並びに機体や機材の手配と確保・マニュアルの作成からタイムスケジュール・そして厄介な収支に至るまで、たいへんな手間をかけたにもかかわらず、残念ながら各県連とも振るわなかったようです。無論こうした苦労がすぐに数字として表われるものではないことは重々承知していますが、結果を県単位で小さくまとめてしまうよりは、一つでも多くの県連との情報交換を通じ、改善すべきところは改善し、次回あるいは来年、再来年と開催していく上で、尚一層の効率化を考えるべきではないかと思えます。

以上の事柄を踏まえた上で、数多くの皆さんと、それら経験に基づいた情報を交換しませんか。また、一般のフライヤーの中にもご意見やアイデアをお持ちの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。一フライヤーの立場、スクールとしての立場、どんなことでも結構です。一人でも多くの方のご意見を伺わせてください。ご協力並びに情報をお待ちしております。ご連絡は、宮城県連広報係の川越敏明まで。〒983-0832 仙台市宮城野区安養寺1-32-31
TEL. & FAX.022-234-7905 川越敏明

福岡県ハング・パラグライディング連盟

1月の総会で、福岡県連の役員が決まったので、お知らせします。

理事長：小林、副理事長：安永、事務局長：舘井、財務：野口、広報：豊田、競技：塚原、研修：富重、総務：小林。(委員会は委員長名のみ) 越智善治

1998年度普及事業最終報告

普及事業推進室 星野 納・鈴木 康之

本年度は別表を見ての通り全国20連盟が26回を開催し、開催数は昨年度より減りましたが、一般参加者は過去最高の3,261名の参加がありました。と言っても秋田県の1,068名参加という巨大イベントがなければ、過去の実績とあまり変わりありません。JHFからの助成金は過去2回とも、かなりの出超になりましたが、今回は計画通りの410万円以内に収めることができました

平成10年度全国体験講習会実施連盟一覧

実施連盟	開催日	開催会場	参加者	指導員	実施連盟	開催日	開催会場	参加者	指導員
佐賀県	5/3-4	佐賀空港	297名	40名	福井県	8月1日	スキージャム勝山	74名	21名
福島県	5月5日	船引町福祉センターグランド	95名	30名	秋田県	8/4-5	北秋田郡森吉山麓高原	1,068名	91名
群馬県	5月10日	利根川河川敷	25名	12名	富山県	8月6日	立山山麓フライトエリア	24名	8名
神奈川	5月16日	県立秦野戸川公園(ゆめ国体)	268名	78名	和歌山	8月29日	高野山転輪山公園	60名	18名
高知県	5月24日	高須浄化センターグランド	70名	29名	宮城県	9月6日	国営みちのく社の湖畔公園	121名	34名
富山県	5月31日	城端町つくばね山原山牧場	30名	9名	山口県	9月15日	橋町ウィンドパーク	72名	52名
広島県	6月28日	高田郡甲田町あらまき牧場	55名	48名	神奈川	10月10日	川崎市宇奈根多摩川緑地公園	114名	54名
広島県	7月5日	高田郡甲田町あらまき牧場	47名	50名	香川県	10月10日	NTT高松グランド	53名	18名
栃木県	7月11日	宇都宮スカイパーク・DK宇都宮	25名	9名	千葉県	10月18日	幕張臨海公園	65名	45名
青森県	7/11-12	青森市モヤヒルズ	50名	30名	愛媛県	10月18日	小田川河川敷	25名	12名
北海道	7月12日	滝川市丸加高原	97名	40名	熊本県	11月1日	吉無田高原みどりの村	111名	25名
青森県	7/19-20	大鰐町大鰐温泉スキー場	71名	32名	東京都	11月8日	多摩川河川敷公園	185名	72名
福井県	7月20日	スキージャム勝山	35名	20名	徳島県	11月8日	吉野川グランド	126名	45名
					合計			3,261名	922名

主催：社団法人 日本ハンググライディング連盟
後援：財団法人 日本財団

た。JHF 財政難の折、当初の予定を途中修正して、きびしい助成システムになったことは、当室の計画の甘さで深く反省するとともに、JHF 財政へのご理解とご協力にあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後の普及活動の推進については、JHF 新役員と相談の上、早期に方針を決定し、本誌に掲載いたします。

広報出版局から大募集!

「空のおお」コーナー出場者募集!

自然体でフライトを楽しんでいる方を毎回紹介しています。「空を飛ぶのが大好き!」な方ならどなたでも歓迎。あなたの身近なハングフライヤー・パラフライヤーをご紹介ください。もちろん自薦もOKです。

「私たちのクラブです」原稿募集!

日本全国のハング・パラのクラブを紹介するコーナー。クラブの歴史や規模は問いません。あなたのクラブでの空の楽しみ方を、是非ご紹介ください。今度載るのはあなたのクラブです!

*ご連絡先を電話(03-3592-2651)またはFAX(03-3597-0245)にて事務局までお知らせください。担当:宮沢明
E-mail komachi@intio.or.jp

ハンググライディング日本選手権 in 広島

大門浩二、ファーストゴールから日本一へ。

年度末の3月21日(日)から27日(土)まで、広島市安佐北区白木町の神ノ倉山・荒谷山で「ハンググライディング日本選手権 in 広島」が開催された。

21日は、あいにくの空模様。この日本選



発表されたタスクを書き写す選手たち。

手権開催に合わせて造成されたメインランディング場で、小雨まじりの開会式。天候の好転は望めず、初日から競技はキャンセルになってしまった。選手は不安定な春空を見上げ、翌日に期待したのだが、22日も雨でキャンセル。雪まで降って、一同ブルブル。

3日目の23日、ようやく太陽が顔を見せてくれた。予報では、寒さがおさまり、かなりいいコンディションになりそうだったが、予想以上に南風がしっかり入って、青空にうっすらと高層雲も。これまた日本選手権に合わせて開発されたエリア、荒谷山のテイクオフポイントに集合した選手たちは、高層雲を気にしつつも「今日こそ飛べるゾ！」と張り切って機体をセットアップ。やがて、眼下の谷を南北に三往復する43.5kmのタスクが発表された。

ウインドダミーの順調な飛びを見て、早い時間にテイクオフした5~6機は、意外に渋いコンディションで苦労したが、シード選手が次々と飛び立つ頃には、まずまずの上がりに。南下してスタートパイロンを上空から撮影し、すぐ北上して第2パイロンに向かった大門浩二選手は、その後単独で動いて、14時31分、最初にゴール。新しいルールによってファーストゴールのボーナス点を得た。次に、昨年のプレ大会優勝者である外村仁克選手がゴール。続いてゴールラインを切った今嶋功選手が、1時間24分の飛行時間で、みごと1位に。2位は12点差で大門選手、外村選手が3位。前回の日本選手権者、鈴木博司選手が4位に入り、藤田直己、友広勉、川瀬力、波多野康雄の各選手が続いた。

フライトした73名のうち8名がゴールし、競技1本めは無事終了。立ち上がりが遅かったものの、調子を出してきた選手たちは翌日の条件が予報よりよくなることを願ったのだが、……。

前日と同じく荒谷山からテイクオフすることになった24日は、穏やかで暖かな風が吹き、日照は少しずつ先細りに。タスクは18km、南北に谷を三往復する。10時45分

にゲートオープン。どんどん弱くなる日照に、早めに飛ぶが勝ちと、次々とテイクオフしたものの高度を上げられず、短時間でランディング。波多野選手だけがジワジワと粘ってミニマム距離4.7kmに達した。

13時頃、上空はすっかり雲に覆われ、今日はもう終わりかと誰もが思ったところで、10機ほどがトップアウト。リフライトするかどうか迷っていた大門選手は、それを見てフルスピードで機体を組み立て、テイクオフ。なんとか間に合って300m上げ、その後も好タイミングで動くことができ11.7km飛んで1位に。2位は9.6kmの納富一則選手、3位に8.9kmの岡田伸弘選手。13名がミニマムを越え、前日との合計で大門選手が首位に立った。

25日は、前日夕方からの雨は上がったのだが、一日中曇天。荒谷山から谷沿いに南



荒谷山からテイクオフ。眼下の三條川東岸にランディング場がある。

北三往復する18.8kmのタスクが組まれた。12時にゲートオープン。予想どおりの渋い条件のなか、わずか5名が4.7kmのミニマム距離を越え、今嶋選手が6.7kmで1位に。しかし63点しかつかず、3本合計で大門選手をしのぐことはできなかった。

結局、26日、27日と天候が悪く競技キャンセル。3本のフライトで、大門選手が新日本選手権者に決まった。

天候には恵まれなかったが、地元組織や市町村や住民の方々の厚いご支援、準備・運営にボランティアで加わった地元フライ

ヤーの皆さんの頑張りぶりに、選手たちは心からの「ありがとう」を言って、それぞれの家路についた。

JHF 広報出版局松田保子

上位者成績

1位	大門 浩二	茨城県	1170.5点
2位	今嶋 功	鳥取県	1095.6点
3位	藤田 直己	東京都	1016.5点
4位	鈴木 博司	三重県	981.0点
5位	外村 仁克	大阪府	968.6点
6位	波多野康雄	兵庫県	947.4点
7位	友広 勉	大阪府	934.8点
8位	川瀬 力	鳥取県	898.3点
9位	高橋 元樹	千葉県	685.8点
10位	藤沢 勇一	茨城県	616.7点



喜びのトップ6。前列左から今嶋、大門、藤田。後列左から外村、鈴木、波多野。

1999 ハングエイドにご協力を

7月24日から8月8日まで、イタリアのモンテ・クッコで、ハンググライディング世界選手権が開催されます。日本のパイロットを代表して、峰岸正弘、外村仁克、鈴木博司、大門浩二、波多野康雄、大沼浩各選手が参加することが決まっております。6名はベストコンディションで競技できるよう、さまざまな準備を進めているところです。

そんな日本チームを精神的に、そして経済的にも支援しようという「ハングエイド」活動が始まりました。これは、世界選手権記念Tシャツ・トレーナーを有志に買ってもらい、その売り上げを日本チームの支援にあてるというもの。発起人代表は、藤沢勇一さん。詳細は各地のHGスクールやショップでお尋ねください。

1999年 CIVL 総会報告

CIVL 委員・JHF 理事 小林朋子

3月5日から7日までデンマーク・コペンハーゲンにてCIVL 総会が開催され、日本から私が出席しました。

22カ国から約60名の参加がありました。アジアからは日本の他に中国からの参加がありました。

今年の総会では「安全性」が一番大きなテーマでした。いくつかの安全性に関する規定が承認されましたし、昨年競技会中に起きた事故の救急態勢について厳しい意見が取り交わされる場面もありました。競技だけではなく、日頃の一般パイロットのフライトにも影響のでくる情報も沢山ありました。

例年通り、3日間の日程の半分以上は分科会での検討に使われました。細かく議論し、場合によっては会議場の廊下やホテルのロビーで夜遅くまで議論は続きました。分科会で出した結論は最終日に報告と必要があれば採決が行われ、承認された項目は新規定としてスタートするのです。

私は安全性関連の分科会とPG関連の分科会に参加しました。どちらも濃い内容でした。

総会の主な内容を関連する項目に分類してご報告します。

【競技会関連】

2001年ワールドエアゲームズ

HG・PG 競技会が世界選手権となります。第2回目となる大会は2001年7月にスペインで開催されます。

ワールドエアゲームズとは4年に1回開催されるスカイスポーツのオリンピックと考えてください。熱気球、グライダーなどFAIが統括する様々なスカイスポーツが一堂に会して、同じ時期に競技会を行います。1997年に第1回大会がトルコで開催されましたが、日本はHG・PG競技会には参加しませんでした。2001年は世界選手権も兼ねる競技会になりますから、日本から代表選手団を派遣することになるでしょう。

世界中にスカイスポーツをアピールする絶好の機会ですからメディアを巻き込んで

の広報活動が早くも始まっています。

1999年PG世界選手権

今年7月2日から18日にオーストリアで開催されます。プレ戦の報告を聞くと、広大なテイクオフ場とライディング場があり素晴らしいロケーションです。平均時速が23kmと速いレース展開になるようです。

1999年HG世界選手権

今年7月24日から8月8日にイタリアで開催されます。クラス の競技も行われる予定です。

HGスピードグライディング

歴史の短い競技ですが年々盛んになってきています。スピードグライディングシリーズの開催地も増え、2000年には世界選手権がギリシャにて開催されます。日本ではまだ馴染みの薄い競技ですが、今後参加するパイロットが増える予感がします。

PGアキュラシー競技

2000年に初めて世界選手権が開催されることになりました。パラセーディングのキャノピーとパラグライダーのどちらでも出場できる新しい競技です。今後の動向が注目されます。

【安全性関連】

パイロット参加資格

カテゴリ1の競技会(世界選手権など)に参加できるパイロットの技術レベルに基準が設けられました。「過去3年間にカテゴリ2競技会で上位2/3以内の成績を残した者」という内容です。2000年から実施され、HG・PG共通で女子選手にも適応されます。

PGマイクロライン切れの対策

PG競技会に出場するプロトタイプ機は8Gの負荷テストをパスした「ライン強度証明書」を取得することが義務づけられることになりました。負荷テストを実施して証明書を発行するテスト団体は、DHVとAerotestです。

マイクロライン切れによる事故が3件発生し、そのうち2件は死亡事故でした。問題は事故が競技中だけではなく、一般パイロットが中古機として購入して普通のフラ



CIVL 会長と筆者。

イト中に発生するケースがあることです。ライン強度証明書が付いている機体は、中古で購入するときの安全性の目安になります。

PGハーネスのストラップ締め忘れ対策

PGハーネスの足のストラップを締め忘れてテイクオフしたことで、1998年前後にヨーロッパで10件の死亡事故が起きています。足のストラップの締め忘れを防止することと万が一締め忘れてテイクオフしてしまった時の対処法をまとめたビデオが紹介されました。非常によく出来ています。マスターテープが近々日本に届くので、日本語の解説を加えて出来るだけ多くのフライヤーに見てもらえるようにします。

この他安全性関連として、競技会での救急態勢の整備やパイロットにとって安全なタスク設定の基準などが明確にされました。

【システム関連】

GPS

GPSを使ったスコアリングシステムが今年の世界選手権から試験的に導入されることになりました。

主催者はランディングした選手が身につけていたGPSを預かりデータを検出します。約20秒でパソコンにデータを取り込むと、飛行距離とコースが測定できるシステムです。既にオーストラリア、アメリカなどで実績をあげています。解決すべき問題がいくつかありますので、従来の写真撮影による証明もバックアップとして続けます。しかし、大会主催者にとっても選手にとっても明快で使いやすいシステムになることでしょう。

RACEプログラム

得点集計システムとしてGAPという方式が世界の主流になっています。GAPの欠点を補った世界の標準得点集計プログラムの制作が進められていて、RACEプログラムと呼ばれています。かなり費用がかかるため、各国からの費用負担を求めています。日本が費用の一部を負担するかどうかはこれから検討します。

【PWCとCIVLの関係】

CIVL 会長はPWC 会長も務めています。そのため近年PWCとCIVLの活動は密接になってきています。CIVLが始めたGAPスコアリングシステムをPWCも採用することになったり、PWCで始まった



さまざまな問題について各国の委員が熱心に話し合う。

オープンクラス競技の動向によって CIVL でも競技会に参加できる機体の規定に反映させる可能性ができています。安全性基準に関しては共通課題として CIVL・PWC 合同委員会を作って作業を進めていく方針です。

【CIVL の英語名称】

CIVL の英語名称は、これまで International Hanggliding Commission でした。本来の活動内容を一目瞭然にするために Paragliding を加え、International

Hanggliding and Paragliding Commission と変更しました。

【CIVL 総会を終えて】

今回の CIVL 総会は私にとって 2 度目の参加でした。事前に日本の意見をまとめる時間を多く取り、かなり内容を把握した上での参加だったので、現地でも充実した時間を過ごせました。述べるべき意見はできる限り伝えつつもです。フランス、ドイツと並んで日本は HG と PG を合わせた人口が非常に多いそうで、積極的に意見を提

案すれば大きな影響力を持つことと責任の重さを実感しました。

これから貴重な資料やビデオテープが JHF に届くことになっています。素晴らしい情報ですので、有効に利用して日本に伝えるのも私の使命だと思います。

総会の詳しい報告は JHF ホームページ (<http://jhfskysports.or.jp>) に掲載しますので、是非ご覧ください。



千葉県ハング・パラグライディング連盟 (CHF)

理事 栗田 賀尉

千葉県連盟では千葉県内のエリアを開拓、活性化を図るべく活動を続けてきました。パラグライダー、ハングライダーの大会を定期的で開催していますが、今年はモーターパラグライダーの大会を企画しました。場所はアクアラインでアクセスがとでも良くなった富津岬でおこないます。この大会は、とかくバラバラになりがちなモーターパラグライダーフライヤーの交流と情報交換、果てはモラルの向上を目標に企画しました。現在同じエンジンを背負って飛ばパラグライダーでありながら、マイクロライト協会の管轄するパワーパラグライダーと JHF の管轄するモーターパラグ

ライダーの愛好家を一同に集めるべくマイクロライト協会、JHF 双方の公認を取り付けた初の大会として開催されます。また、この大会をプレ大会として、年末には日本選手権を開催すべく誘致活動をしています。

千葉県連が今年モーターパラグライダーの活動に力を入れているのには事情があります。それは、千葉県下でのモーターパラグライダーの活動が活発である事。しかしその活動内容や事情を把握しきれていない事。個人フライトになりがちなモーターパラグライダー愛好家の情報交換の場がない事。自由に飛べたモーターパラグライダーに関する苦情が大変多い事から、このままでは



ハングもバラも、動力付きも仲よく活動していきたい。

自らモーターパラの活動をせばめてしまう結果になりかねない危機感に見舞われたためです。千葉県内にはモーターパラの愛好家が多くいるはずなのですが、CHF に登録されているのはごくわずかです。千葉県内でモーターパラグライダーの活動をされている方々すべてが、そのエリアの周辺の方々の理解の上にフライトしているわけではありません。人里離れたところにある決められたエリアで飛んでいるハング、パラグライダーは、エリアに守られていると言えます。それに比べて、民家に近いところでしかも低い高度を大きな音をたててフライトするモーターパラグライダーは、愛好家一人一人のモラルや社会的責任をより多く問われるスポーツである事を、強く自覚しなければなりません。これを長く続けていくためには、愛好家の情報交換や活動内容の把握、そして一般の人たちとフライヤーの窓口となる団体の活動を活発にする事なくしてありえません。千葉県在住のフライヤーの方、千葉県のフィールドで活動されている方の CHF への加盟をぜひともおねがいします。



東京湾観音に見守られて海風ソアリング。富津エリアで。

事務局からお知らせ

技能証発行についてのお問い合わせ

技能証がなかなか届かない。そんな時は次の点を確認してから、事務局にお問い合わせください。

- ・検定を受けたスクールに、JHF 事務局に申請書を提出したのはいつ頃か、確認する。
- ・教員の方が申請書をまとめてから報告書を作成し JHF 事務局に送るのに数日かかる場合もあります。発行数が多い時期でも、技能証は 4～5 日で事務局から発送します。

- ・申請書類に不備がなかったかどうか、検定を受けたスクールに確認する。書類の不備があった場合は、原則として報告してきた教員の方にご連絡します。

- ・技能証の送り先を確認する。申請書と一緒に住所宛名ラベルを提出していれば、その住所(ご自宅)に、それ以外は一括してスクールにお送りしています。なかには、ラベルの記入が不十分で配達できず戻ってくるものもあります。記入は正確にお願い

します。

技能証・学科合格認定証の再発行

技能証と学科合格認定証の再発行には、申請書(再発行にをつける)と、再発行依頼書の 2 枚が必要です。事務局にご請求ください。また、再発行依頼書には、確認の手がかりとなる、技能証番号、検定員・教員の氏名あるいはスクール名、取得年月日等をご記入ください。

ハロー

パラグライディング (その1)

飛んでみたい!

「空を飛べたらなあ!」と思ったことがありますか? それを実現してくれるのがパラグライディングやハンググライディングなどのスカイスポーツです。テニスや野球などのスポーツと比べると、なんだか遠く感じてしまうスカイスポーツですが、「飛びたい!」という気持ちさえあれば、思ったよりずっと近くに「夢」の入口があります。

* * *

コウジ: パラグライダーの一日体験やっただです。すごく楽しかったです。

シゲオ: 初飛行おめでとう。それにしてもずいぶん飛んでいたね。

K: すっかり夢中でやってみました。でもあんなに簡単に飛べるとは思わなかったなあ。朝から練習して昼にはもうふんわりと飛べましたよ。

S: あの日には風も良かったよね。パラは風次第のスポーツだから、いつも同じに飛べるとは限らないんだ。もし次回、あまり飛べなくてもがっかりしないだね。

K: となりではハングライダーが練習していましたね。

S: 正しくはハンググライダーと言うんだ。「ハンググライダー(を使って)で飛ぶス

ポーツが「ハンググライディング」、「パラグライダー(を使って)で飛ぶスポーツがパラグライディング」と言うわけだ。「ハング」とか「パラ」と略すと、「ハング(パラ)グライダー」と「ハング(パラ)グライディング」のどちらの意味にも使うね。

K: じゃあ、どうしてパラの人那么多さいるのに、ハンググライディング連盟というの?

S: 大きな意味では、ハングで飛ぶこともパラで飛ぶことも「ハンググライディング」という分類になるんだ。だから「日本ハンググライディング連盟」なんだけど、県連によってはわかりやすいように「ハング・パラグライディング連盟」と言っているところもあるね。

K: 一日体験が楽しかったんで、もっとやってみたくて思うんだけど。

S: それなら A 級取得コースに入るといいよ。パラの技能証は初級から「A 級」「B 級」「ノービスパイロット(NP 証)パイロット(P 証)」と 4 段階になっていて、A・B 級は練習生としてインストラクターの指導を受けて飛び、NP 証以上を持つと、一定の条件の中で自分の責任と判断で飛べるようになるんだ。

K: スクールはどこがいいかな?

S: 基本的には一日体験を受けたスクールがいいと思うよ。他のスクールも知りたければ、JHF に「スクール情報登録制度」というのがあから尋ねれば教えてくれるはずだよ。

K: よし。今度の週末は A 級コース入門だ!

「ハローパラグライディング」は新シリーズです。大空への一歩を踏み出したばかりの人たちに、パラグライディングを紹介していきます。一人前のパイロットとして飛んでいる方も「こんなこと、とっくに知ってるよ」と言わずに、ぜひ読んでください。「あれ、そうだったの?」ということがあるかもしれません。

JHF レポートは、フライヤーの皆さんに、連盟活動についてお知らせするほか、「楽しく安全に」飛び続けるための幅広い情報を、わかりやすい形で提供していきます。限られたページ数ですが、ビギナーからベテランまで、誰もが興味深く読めるものをめざします。 JHF 広報出版局

検定会開催予定(1999年3月25日現在)

PGP : PG パイロット学科 PGNP : PG ノービスパイロット学科 HGP : HG パイロット学科 XC : PG&HG クロスカントリー学科 補助 : 補助動力学科 (いずれも数字は定員)

開催日	時間	開催地	会場	PGP	PGNP	HGP	XC	補助	主催者	電話番号
5/11(火)	17:00~20:30	神奈川県横浜市戸塚区	東戸塚地区センター会議室	10	10	5	5	3	ヨコハマスカイスポーツ	0460-3-6958
5/16(日)	16:00~18:00	静岡県富士宮市根原字宝山	DKスカイジム朝霧	50					DKスカイジム朝霧	0544-52-1031
5/23(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
6/13(日)	18:00~20:00	神奈川県横浜市神奈川区	神奈川県民センター会議室	15	15	15	15	1	神奈川県連盟	0460-3-5391
6/26(土)	14:00~17:00	岡山県阿哲郡大佐町	S・E・T 大佐山講義室	20					SET 大佐山 SS	0867-98-3400
6/27(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196
7/17(土)	14:00~17:00	岡山県阿哲郡大佐町	S・E・T 大佐山講義室		20				SET 大佐山 SS	0867-98-3400
7/25(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196

大会開催予定(1999年3月25日現在)

PS: ポイントシステム対象(ポイントシステム対象、公認については申請を含む。)参加資格 XC: クロスカントリー証 P: パイロット証 NP: ノービスパイロット証 B: B 級練習生参加可 会員: 都道府県連盟に属する者

区分	大会名	日程	開催地	参加資格	参加費	締切
PG	公認 第7回DKスカイジムPGカップイン朝霧	5/22・23	DKスカイジム朝霧	XC	15,000円	5/10
	PS 〒141-0001 東京都品川区北品川5-6-27 TEL.03-3280-0861					
PS	公認 尾神岳日本選手権プレ大会	5/29・30	新潟県尾神岳	P	12,000円	5/15
	PS 〒949-3443 新潟県中頸城郡吉川町下町1126 役場産業課内 TEL.0255-48-2311					
SPS	公認 第2回DKスカイジムSPSカップイン朝霧	6/5・6	DKスカイジム朝霧	P	12,000円	5/24
	PS 〒141-0001 東京都品川区北品川5-6-27 TEL.03-3280-0861					
PS	公認 '99立山らいちょうバレーカップINサマー	7/31・8/1	らいちょうバレースキー場	XC	10,000円	7/19
	PS 〒125-0031 東京都葛飾区西水元6-22-15 TEL.03-3608-8626					
PS	公認 '99高山ホルンバレーカップ	8/28・29	高山ホルンバレー	XC	15,000円	8/17
	PS 〒125-0031 東京都葛飾区西水元6-22-15 TEL.03-3608-8626					
PS	公認 '99Cooフルーツカップ	10/9~11	エアーパークCoo	XC	20,000円	9/30
	PS 〒315-0157 茨城県新治郡八郷町上曽1698-1 エアーパークCoo大会実行委員会 TEL.0299-44-1408					
PG	サマーミーティングインオオシマ	5/22・23	山口県橋ウインドパーク		10,000円	
	PS 〒742-2806 山口県大島郡橋町西安下庄真宮 橋町役場企画課 TEL.08207-7-5501					

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

3月臨時理事会

1999年3月6日(土)13時30分～17時
東京都港区ニュー新橋ビル11階会議室
出席：渡邊敏久、川添喜郎、鈴木康之、朝日和博、岩間雅彦、関谷暢人、星野納、松田保子各理事、宮川雅博、坂本三津也各監事
欠席：小林朋子(CIVL総会に出席のためデンマークに出張中) 議長：星野納

FAI表彰者決定について

渡邊会長より、FAI表彰の候補者として推薦した小川隆久氏と市田博久氏の表彰が決まったことについて報告あり。

スカイレジャー航空無線事業について

川添副会長より報告。協力業者募集呼びかけに応じてきた5社から、2社に絞って交渉し検討した結果、アイコム株式会社を協力業者として決定した。

3月総会の議案につき審議

1999年3月17日(水)開催のJHF3月通常総会の議案として、99年度事業計画案、99年度予算案、任期満了に伴う役員の選任をとりあげて可決。

正会員からの総会議案につき審議

福岡県連盟・茨城県連盟から提案された「JHF定款第4章第13条の3の削除」については、3月通常総会の議案としてとりあげて可決、賛成6、棄権1で可決。

福岡県連盟提案の「理事資格を正会員にする」件については、情報が不十分なため議案とせず、提案者が提案理由の説明をする時間を設けることを、賛成6、棄権1で可決。

JHF会員規約案について審議

2月理事会で承認済みの「(社)JHF会員規約」を、3月通常総会の議案とすることを、賛成5(議長票含む)、反対3で可決。

タンデム技能証制度運用について審議

教習検定委員会から提出された、タンデム技能証制度の運用案を、賛成7で可決。

着陸装置付きPPG、PHGについて

(財)日本航空協会からの文書「着陸装置付きPPG及びPHGの超軽量動力機への移行措置」について、協議。

書類保管料について

JHF事務局内では保管できず、外部に預けてある書類の保管料について、見直すべきではないかと、事務局から資料が提出された。

3月理事会

1999年3月17日(水)10時～12時 東京都羽田空港ターミナルビル・ビッグバード6階会議室

出席：渡邊敏久、川添喜郎、鈴木康之、朝日和博、岩間雅彦、関谷暢人、小林朋子、星野納、松田保子各理事、宮川雅博、坂本三

津也各監事 議長：松田保子

統計資料について

渡邊会長より、地区別男女別フライヤー登録有効数、年齢階層別フライヤー登録実績等の統計資料が提出された。

スカイレジャー航空無線事業について

事務局長、朝日理事より、協力業者の決定から無線機発注、支払いまでの経過について説明あり。

CIVL総会について

海外局担当、小林理事より、3月5日～7日にデンマークで開かれたCIVL総会について報告があった。提出資料あり。

普及事業について

普及事業推進室担当、星野理事より、平成10年度普及事業の報告を、(財)日本財団に行う旨、報告があった。

3月通常総会について

同日午後の3月通常総会の議事進行等について協議した。

*

「理事会ダイジェスト」は、理事会で話し合われたこと、決まったことのポイントをお知らせしています(審議事項はすべて掲載)。理事会の議事録は各正会員(都道府県連盟)に送られるので、必要な方はそちらをご覧ください。 JHF広報出版局

フライヤー登録を更新する方をお願い

ハング・パラグライディングフライヤーの皆さんは、(財)日本航空協会にフライヤー登録をしているはず。ご自分の登録カードを見て、有効期限を確かめてください。もし、今年中に更新が必要なら、次の登録は3年間でなく、1年間にしてください。

るようお願いいたします。

来年1月、フライヤー登録制度は、航空協会からJHFに移管されます。つまりフライヤー登録はJHFにさせていただくことになります。移管後も、登録すると自動的に第三者損害賠償保険に加入できるのもちろ

ん、JHFレポートが各都道府県連盟をささず直接あなたのお手元に送られる予定です。この直送サービスは、JHFへの登録が済んだ方が対象なので、それ以前は各県連を通してお求めください。

スカイレジャー航空無線機普及事業がスタート。協力者を求む！

JHFでは、1995年より「スカイレジャー専用無線機の利用によるスカイスポーツの安全対策と活性化」の計画を立て、補助金申請を続けてきました。これは、スカイレジャー用の専用波を利用し、競技会や講習会、検定会等での無線通信を合法的に行い、安全を図ろうというものです。

昨年、郵政省から「平成10年度お年玉付き郵便葉書等に付加される寄付金の配分」

をいただくことが決まり、計画が具体化されることになりました。協力業者の選定、無線機の正式発注も終わり、いよいよ今夏以降にスタートする予定です。

ただし、機器の購入以外にも、やっておかなければならないことがあります。まずは、JHFが「無線従事者」をおき、専用無線局を設置する必要があります。また、無線従事者養成計画の立案など、いくつかの課題

があります。

そこで、お願いです。「第3級陸上特殊無線技師」または「無線電話の乙」資格をお持ちの方、ぜひご協力ください。ご連絡は、JHF事務局、横尾まで。TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

本事業の詳細は、あらためてJHFレポートに掲載します。

日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC) 議事録

日時：1999年2月18日(木) 13時～17時
場所：航空会館6階602会議室

出席委員：阿部郁重、斎藤紀、岡良樹、泉秀樹

委任状 小宮國男、下山進、幸路尚文

オブザーバー：川添喜郎、中台章

機体登録申請者：ジオスポーツ株式会社

技術部会(型式登録審査)

パラグライダー・新規登録

・プロデザイン式リラックス34型(合格：PI-664)

・プロデザイン式リラックス36型(合格：PI-665)

・プロデザイン式ターゲット42型(合格：PI-666)

・プロデザイン式ターゲット44HR型(合格：PI-667)

ハンググライダー・新規登録

・イカロ2000式ラミナル12ST型(合格：I-170)

定例委員会

・計測機材の更新について

野口委員から提出された見積りが概算であるため詳細見積りの提出を求め、改めて検討することになった。

・DHVの評価試験について

中台章(オブザーバー)氏から、DHVのパラグライダー評価試験の現況について説明を受けた。

[配布資料]

「サーマルを見る」(S&E MODELLER Jan. 99より抜粋)

理事からひとこと

川添 喜郎

毎朝、犬の散歩で近くの航空公園を歩きます。ダイオキシンで有名になった所沢は東よりの風が吹くと息がつかまる異様な空気が流れてきます。テレ朝の報道は住民にとっては有難い代弁者。「久米さん、謝罪なんかせずもっと伝えてよ。」等と思いつつ、いつもお世話になっている大気が澄んだものであってほしいと願います。澄んだ空気の風切り音、グライディングの魅力の一つだと思います。

樹々の芽がふくらみ始めました。自然の営みは必然であり、必然があるから美しいのだと感じます。絵かきの私がいくら頑張ってもその美しさを超える作品はできないと思います。

3月総会が終わりました。活発な議論がなされ新しい役員も選出されました。私も再選して頂きましたが、「必然」な活動を、新しい芽ぶきの気持ちで頑張りたいと思います。

朝日 和博

新年度になり、理事会も新しい体制となりました。フレッシュな理事たちからの新風を生かして、JHFを発展させていきたいと思っています。今年度は1999年から2000年への橋渡しの時期でもあります。フライヤーの、会員資格に関する事が大きく変わろうとしています。大いに議論を重ね、来るべく21世紀に向かって大きくはばたきたいものと考えています。

ここしばらくは、実働するフライヤーが減ってきておりました。でも、日本の経済動向と同じように、下げ止まりの傾向が見えてきておるようです。一度空の楽しみを心より味わうことのできたフライヤーは、その後は、継続的に活動しているように見えます。それは、このスカイスポーツは生涯に渡って楽しめるスポーツであるということを実証しているものだと思います。私自身も大いに空と仲間を楽しんでおります。

共に、楽しく、そして感動的に、このすばらしい空のスポーツを保てるよう、いっしょにがんばりたいと思います。

岩間 雅彦

この稿が載る頃にはすでに新しい理事によってJHFの運営が行われているはずですが、理事が選挙で選ばれることを考える

と、その選挙を司る選挙管理委員は総会で指名すべきであり、理事会で指名する現在の方式には疑問を感じます。選挙管理委員会が中立の組織として機能するには、この点を改めることが不可欠だと思います。また、現在のJHFの選挙方式では、一般フライヤーが都道府県連に加入しても、投票に参加できるのは都道府県連の役員選挙だけであり、その役員が都道府県連の理事長を選び、都道府県連の理事長がJHFの理事を選び、JHFの理事がJHF会長を選ぶということで、最終的にJHFの会長が選ばれるまで4段階もの選挙があります。これでは一般フライヤーの意志が理事や会長などのJHF役員の選出に反映されることは全く期待できません。正直なところJHFはまだ未熟であり、本当の意味でのフライヤー組織にはなっていません。こうした状況の改善のためには、各種の選挙制度を根本的に見直す必要があるのではないのでしょうか。

関谷 暢人

昨日、千葉県ハング・パラグライディング連盟主催の「モーターパワードパラグライダーミーティング」に参加してきた。

標記を見てもわかるように、昨今のモーターパラの状況を苦悩した開催配慮が感じられた。フライトイベントは強風によりキャンセル(4月4日に延期)されたが、国民宿舎で参加者とイベント協力として参加したJHFとFLMの関係者によりミーティングが行われ、参加者の一人から痛烈なコメントが寄せられた。

「現在の技能証において、JHFとFLMがあり、我々愛好者は多大に困惑している、各種登録・技能証の更新時期が来ている、費用が倍になり悩んでいる。私たちはどちらでも構わない、一本化してほしい。」確かにごもっともなことだと思う、どちらの組織も愛好者のための団体でありながら、愛好者に不快な思いをさせている。組織の方針を理解してもらって啓蒙活動も必要だが、組織と組織が手を組んでスカイスポーツ界の発展を目指した普及活動も必要である。世界各地で大手の企業が提携している時代なのだから。

小林 朋子

2年前、なんと無鉄砲なことをするのだ

ろうと周囲に言われつつ理事選挙に立候補したときは、まだ理事という仕事がこんなに大切なものだと認識していなかったように思います。続けることができたのは、大勢の方からご指導を受け勉強させていただいたお蔭です。

二年間を振り返って、一番印象に残っているのは、CIVL総会に2回出席したことです。世界が一つになって大きなテーマに取り組むことに参加できたことは、かけがえない経験となりました。

継続して理事として仕事をする機会を与えていただきましたので、今まで以上に役に立ってる理事になりたいと、気持ちを引き締めています。

松田 保子

また2年間、理事をつとめることになりました。これで、今までやりたかったのにできなかったことに取り組む時間ができたと喜んだり、2期目はこれまで以上に責任重大だぞと自分に言い聞かせたりしているところです。皆さん、お気付きの点やリクエスト等、どんどん声に出して、理事たちを応援してください。たくさんの方の意見を聞いて、連盟活動に反映させたいと思っても、相手が背中を向けていては、その考えを押し量るのは不可能です。JHFへの不満でも何でも、ピシピシとぶつけてください。そして、まだ赤子のようなJHFをみんなと一緒に育てていきましょう。

4月6日(火)に、新メンバーによる1回目の理事会が開かれました。理事の互選で、会長に川添喜郎理事、副会長に小林朋子理事が決定。また、関谷暢人、横尾和彦、朝日和博各理事が、常任理事をつとめることになりました。

各委員会等の担当は、以下の各理事。これから調整が必要で、まだ担当が決まっていないところがあります。
HG競技委員会：松永文也
PG競技委員会：松永文也
補助動力委員会：星野納
教習検定委員会：岩間雅彦
制度委員会：横尾和彦
広報出版局：松田保子
海外局：小林朋子

JHF 技能証発行数 (1999年3月31日現在)					
ハンググライディング	P証	4,768	パラグライディング	P証	17,564
	C証	6,687		NP証	7,915
	B証	11,220		補助動力NP証	62
	A証	10,635		B証	38,471
	補助動力証	124		補助動力B証	120
	XC証	1,061		A証	41,320
				補助動力A証	145
		補助動力証	871		
		XC証	3,263		

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

JHF レポート 5月号 (No.148)

発行日 1999年4月20日 定価 10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F
TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。